

令和4年度 江戸川区立西葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考える子(進んで取り組み、よく考え、表現する子供の育成) ○心豊かな子(互いの人格を尊重し、思いやりの心をもつ子供の育成) ・たくましい子(困難に負けず、最後までやりぬく、心身共にたくましい子供の育成) 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○児童が明るく元気に学び合える学校 ○地域に開かれ、保護者、地域から信頼される学校	○保護者が安心して子供を任せられる安全な学校 ○教職員が笑顔で共育・協働し、自分の力を発揮できる学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 社会科の2年間の研究を通して、「思考力・判断力・表現力等の育成」に一定の成果を見いだすことができた。 体力維持向上に向けた教育活動が1年間通して安定して確保することができた。 <課題> 新学習指導要領で示された3つの資質・能力の育成に向けた授業改善。			

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間35回以上の補習教室(朝学習)の実施 ・放課後補習教室の実施 ・3～6年生の習熟度別少人数数授業の実施 ・各教科等の授業で一人一台タブレット端末を活用し、授業改善を実施 ・児童の自宅にてeライブラリアドバンスの活用を推奨(江戸川っ子study week)の学期1回の実施) ・全学年で授業研究・公開・協議会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・補習教室は年間35回以上実施 ・一人一台タブレットを1日1回以上活用 ・児童向けPC教室を各学年、年1回の開催 ・東京ベーシックドリル平均正答率前年度比増 ・児童アンケート学習することが楽しい」80%以上 	A	A	1学期の東京ベーシックドリル正答率50%以下の児童数は前年度比で減少した。また平均正答率前年度比は増加した。これらもタブレット端末活用、eライブラリアドバンスの活用、朝学習、少人数数などの実施により、学力向上を目指していく。1回目アンケート結果「学習することが楽しい」は89%だったが2回目では92%と上昇した。	A	タブレット端末利用は、学力向上に一定の効果はあったのではないかと。タブレット等のデジタル端末以外にも児童同士の直接の関わりをコロナ禍前のように少しずつ取り戻していくことも大切なのではないか。担任によって指導のばらつきがないようにしてほしい。西小スタンダード等、校内統一見解をもつて指導に当たってほしい。	タブレット端末の更なる利活用の充実を通して、学力向上を目指していく。タブレットだけでなく人との関わり合いに関してコロナ前に出来るだけ少しずつ戻していく工夫をしていく。また研究を通して個別最適な学びについて日々授業改善を行っていく。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間30回程度の運動遊びの実施(クラス遊び、わくわくタイム、短縄、長縄、持久走など) ・晴れた中休みは外遊び実施 ・運動を得意としない児童への十分な配慮 ・特色ある教育施設である土俵を活用したわくわくすも教室やわくわくすも大会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・短な週間、持久走週間を年1回実施 ・児童アンケート「外遊びをよくしている」85%以上 ・体力テスト合計各学年で1項目以上前年度比増 	A	A	昨年度と比べて校庭で運動している児童が増加した。体育学習に意欲をもって取り組む学習を推進していく。1回目アンケート結果「外遊びをよくしている」は70%だったが2回目87%と上昇した。わくわくすも大会を今年度は実施した。体育学習やわくわくタイム等での外での運動遊びを励行していく。	A	積極的に遊ぶ児童とそうでない児童の二極化が進んでいる傾向がある。本校で長年行われているわくわくタイムなど習慣化した運動は引き続き行ってほしい。体育学習には好意的な児童が全都でも増加している。人との関わりを学ぶ場としても有効である。中休みに元気に児童が遊んでいる様子は校外からも良く分かる。	わくわくタイムなど外遊びについて、運動が得意としない児童に配慮しながら、更に充実するようにしていく。体育学習には好意的な児童が全都でも増加している。運動の日常化を目指していく。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラス学期3回以上の図書館活用 ・本を使った調べ学習年1回以上実施 ・読書科研修の充実 ・学校司書の活用 ・学校図書館の環境整備(調べる学習に活かせる書籍の配備等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラス国語科、読書科、社会科、総合的な学習の時間等で年間10時間以上の調べ学習実施 	A	A	朝読書や学校図書館の活用により、読書を通じた探究的な学習の充実を図っている。読書科だけでなく学校図書館を活用する学習を推進していく。課題は、読書活動と相反する部分があるタブレット活用、読書科年間10時間の制約で1年間通して学習を継続することである。	A	江戸川区有野栄子児童文学館が建設中である現在、読書科に児童が親しむのはとても良いことである。区内図書館にあるバーコードリーダーが小学校図書館にも設置されると更に良いのではないかと。	読書科としてだけでなく、様々な教科領域で読書を活用していく。読書科コンクールなど読書科学習へ意欲的に取り組めるよう学習を充実させていく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校2020レガシーの設定 ・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画の作成 ・ユニバーサルデザインの視点での教育環境整備 ・特別支援教育の研修の充実 ・校内委員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を笑顔にするプロジェクトを年1回実施(9月) ・出前授業を各学年年間3回以上実施 ・特別支援教育研修を学期1回実施 ・校内委員会を月1回開催 	A	B	巡回指導(特別支援教室)の教員と連携を図り、介助員を配置して、個人の特性に応じた指導をエンカレッジルーム等でを行っている。子供を笑顔にするプロジェクトは台風のため延期したが11月に行った。出前授業は予定通り行った。次年度も計画的に行っていく。	B	児童数が比較的多い本校では、児童数に比例して支援が必要な児童も多い。児童それぞれの特性に合った支援をさらに充実して行ってほしい。時には治療薬を処方してもらうことが有効なこともある。エンカレッジルームについてはこれからも保護者だけでなく児童にも説明があるとうい。	いじめや不登校に対して担任だけでなく学年また学校全体で早期対応していく。またエンカレッジルームの活用推進をしていく。
	子供たちの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの健全育成に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区子どもの権利条例の理解、教科内指導 ・生活指導連絡協議会の実施 ・キャリアパスポートの活用 ・いじめ防止対策委員会の定期的開催 ・異年齢交流の場として縦割り活動の推進 ・全学年での段階的なキャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・Hyper-QUによる学級満足度要支援群の出現率1割以下 ・いじめアンケートを年間3回実施 	A	B	第1回Hyper-QUによる学級満足度要支援群の出現率1割程度だった。1割未満になるよう、児童に寄り添った指導を引き続き行っていく。第2回目は12月に実施し、結果が出次第、結果分析・対策を講じていく。	B	Hyper-QUでクラス内の様々な人間関係を把握することで、担任が児童一人一人に寄り添った指導ができることは良いことである。コロナの後遺症が心配である。またいじめアンケートで児童の実態把握をこれからも行ってほしい。またHyper-QUは保護者にとっても馴染みが薄いため説明を続けてほしい。	落ち着いた学習に取り組めるよう、授業改善をしていく。また特別支援教育について教員が今一度確認していくことで、多くの目で児童に寄り添った指導を行っていく。また児童・教職員へ江戸川区子どもの権利条例の理解促進を行っていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校統一された重点項目による評価実施 ・評価分析結果の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価にてA評価を80%以上 ・保護者アンケートにて 	B	B	学校関係者アンケートを昨年度は1回のみ実施だったが、今年度は2回実施した。1回目を9月、2回目を1月に行った。次年度は1回目を1学期中に行うことで、1年間通した評価の変容を把握していく。	B	引き続き、学校評価を公表し、学校改善に努めてほしい。今後の成果につながるよう進めてほしい。学校関係者評価の内容で分かりにくい事項がある。引き続き説明をしてほしい。	教職員、保護者、地域の方に十分に理解してもらい、次年度につながる成果を出せるよう努めていく。今年度も行ったホームページを充実させていくことで、自校の取組の積極的な発信を行っていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営支援を担う人材の導入 ・校務の精選と見直しの継続的実施 ・定時退勤の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価(教職員)での働き方改革推進に関する項目のA評価70%以上 	B	B	学校経営支援を担う人材の導入で、校務軽減につながっている。在校時間の管理や留守電対応など、これからの引き続き働き方改革プランを進めていく。	B	働き方改革は具体的などのように進んでいるのか。ICTを導入し、計画的に進めてほしい。	働き方改革を進めていく上で在校時間を意識した業務など教職員の意識を変革していく。ICTを活用して会議等の精選・取組方の工夫を行っていく。